

第5回 航空局コンプライアンス・アドバイザー委員会議事概要

■ 日 時：平成31年2月22日（金）13時00分～14時30分

■ 場 所：国土交通省 7階 C会議室

■ 出席者：[航空局コンプライアンス・アドバイザー委員]

後藤 晃 （東京大学名誉教授）

芝 昭彦 （芝・田中経営法律事務所 弁護士）

前田 泰宏 （公認会計士）

（新日本有限責任監査法人エグゼクティブ・ディレクター）

[航 空 局] 蝦名航空局長、堀内大臣官房審議官、
村岡大規模自然災害対策本部長、久保田航空ネットワーク部長、
飯嶋交通管制部長、宮澤総務課長

[オブザーバー] 鶴田東京航空局長、川勝大阪航空局長、長谷川航空保安大学校長、
里見福岡航空交通管制部長

■ 議 事：

(1) 平成30年度航空局コンプライアンス推進計画の実施状況報告（案）について

※地方支分部局・施設等機関から、現場官署の「コンプライアンスに対する意識改革」の
取組について報告

(2) 平成31年度航空局コンプライアンス推進計画（案）の策定について

■ 各委員からのご意見

1. 継続的なコンプライアンス意識の確保について

・各官署でいろいろと工夫した取り組みを行っているようであるが、残念ながら全体としては非違行為が増えているのが実情であるので、各事例を緻密に深く分析して真因究明や再発防止等の対策を講じる必要があるのではないか。

・非違行為の事例を見ると、誰もが悪いと分かっている犯罪、交通違反等が多い模様であり、不適切事務処理も含めて知識の問題ではないと考えられる。意識面での対応が足りていないとも思われるので、知恵を絞ってより効果の出るような取り組みをしていかないと、平成31年度は更に増えてしまうかもしれないという危機感を持ってやっていただきたい。

- ・推進計画における色々な取り組みを行ったことについて、効果をきちんと測定して、あまり効果が上がっていなければ、その対応策を考える。色々な取り組みをどんどん増やしていくと、非常にコンプライアンスの為のコストが高くなって、本来の業務にしわ寄せがくると言うことになると極めて問題である。コンプライアンスの実施については、効率的に行うことを検討していく必要がある。

- ・推進計画の取り組みが年々増えている。本来業務が増えている中、コンプライアンスを守れと言われ、無理な状態になって追い込まれると、どうしても無視してしまう。何か増やしたら何かを減らしていく。計画内容も増えているので何を優先していくかを取り組んでは如何か。

2. コンプライアンス意識の現状分析について

- ・自己点検の正答率が98.9%と殆どの方が正答であるので、例えば、間違えやすい問題を作るとか、リスクがあると思われる内容に絞る等、次年度は内容を見直したり工夫をしたりしては如何か。

- ・効果測定に関しては、一年前に比べて自分の部署はどうなったのか（去年より良くなったのか。各取り組みは効果的だったのか等）という点を確認するのも一案である。例えば、匿名のアンケートで皆どう感じているか本音を探る方法も考えられる。一生懸命取り組んだものの効果が出ていない取り組みがあるとするならば、次年は違う取り組みをするなど工夫をしていかないと、改善されない。

- ・自己点検ではコンプライアンスを理解しているか等、直接的な事項しか見ていないので、例えば「業務量が多いですか」とか、「横とか上司のサポートはちゃんとあるか」「業務が難しすぎますか」「民間企業や申請者からのプレッシャーが多いですか」「苦情の電話は多いですか」等、若干圧力を受ける要因を探ってもよいのではないか。

3. 管理職のマネジメントについて

- ・コンプライアンスの原理原則というものを自分の職場でどうやって実行していくのか、というのを現場の管理者が考えていくことが大事である。他方で業務も多忙であるわけで、そこは本省のほうで現場の責任者をサポートしていくことが必要である。